

ご挨拶



皆さまには日頃からValqua Technology Newsをご愛読いただき、心より御礼を申し上げます。

当社は、前中期経営計画NF2022を1年間前倒して終了し、新たな2年間の中期経営計画として NF2023を本年度からスタートさせることになりました。この背景には、NF2022について昨年度までに概ねの目標が達成されたこともありますが、世界情勢や技術革新によってビジネス環境が激しく変化する現況において、その変化を凌駕するコーポレートトランスフォーメーション（CX）を進めるには、より革新的な取り組みを加速的に実行していくことが必須であり、その視点から新たな中期経営計画を立ち上げる判断となりました。

この中期経営計画においても、R&Dが当社としての成長目標を実現していくために重要な役割を果たしていくことを基軸としております。具体的には、新素材技術の適用で高性能化された種々のハード製品、IoT関連技術を活用した予知保全技術、材料の機能性を活かす技術開発、そしてこれらのソリューションに対するデータサイエンスの活用といった、当社としては少し新たな領域への技術開発活動を展開することにより、当社が目指すH&S事業の方向性と同調させて顧客の皆さまへ新たな価値を提供させていただく活動を進めてまいります。また、その開発活動においては、既に以前から開始しているオープンイノベーションを活用する試みを継続してまいります。オープンイノベーション活動での相手先としては、日本国内の研究機関や企業に留まらず、コロナ禍による影響を受けながらも欧米のStart Upsや大学等との活動も拡大し、より広い知見に基づいたより価値の高いH&Sソリューションを顧客の皆さまにお届けすることで、NF2023そしてその後の当社の100周年での成長目標の達成に向かっていく所存です。

今号のテクノロジーニュースでは、以上のような背景の中で様々な視点で進めてきた当社の研究成果の一端を読者である顧客の皆さまにご紹介したく存じます。コア事業であるシールエンジニアリング技術からは締結管理の基本的な視点から「締付け効率の研究」を、そして当社の知見を保全活動に活かすとともにIoTやAIを幅広く活用していくという背景から「遠隔監視プラットフォームと予知保全サービスの紹介」を、更には地球温暖化に大きく関わるエネルギー課題にシール技術で貢献を図る「BLISTANCEシリーズ品“HLT II”の紹介」等を、新たな視点と開発技術の方向性について取り上げております。

当社が、革新的な成長において技術開発活動での成果を推進材としていくために、既存の事業領域内だけで技術分野を選別するのではなく、要素技術として幅広い領域でのエマージング技術についてそれらが持つポテンシャルを量る目を養いながら、使える・活かせる技術の発掘を進めてまいります。

今後とも、当社製品・サービスともども、バルカーテクノロジーニュースを引き続きご愛顧いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

取締役CTO 青木 睦郎